『広島和牛』　～歴史と伝統のある優秀な血統により育まれた逸品～

広島県は，1,000 年以上前から日本三大牛市場のひとつとして栄えた土地であり，江戸時代後期には現代和牛のルーツとされる日本四大蔓の一つ「岩倉蔓（いわくらづる）」を作出し，造成された蔓牛（つるうし）※1 により全国和牛能力共進会において２大会連続で日本一になるなど，和牛産地として全国的に名声を博しました。

広島和牛は，中国地方の豊かな自然と，歴史と伝統のある優秀な血統により育まれた優れた逸品です。繊細で豊かな風味，なめらかな口どけ，深いコクと甘いうま味は，和牛本来の奥深い美味しさを引き出しています。

■比婆牛

庄原生まれ広島県内育ちで，３代祖までに広島血統を有する黒毛和種。肉質３等級以上であること。

また，比婆牛には，オリーブオイルと同じオレイン酸（MUFA）が遺伝的に多く含まれており，その特性が認められ，令和元年９月に和牛肉としては中四国地方で初めて GI（地理的表示）保護制度※2 に登録されました。

■神石牛

神石高原町育ち又は神石血統を有する神石高原町生まれ広島県育ちの黒毛和種。肉質３等級以上，歩留等級Ｂ以上であること。

■広島和牛元就

広島生まれ広島育ちで，２代祖までに県有種雄牛の血統を有する黒毛和種。肉質３等級以上，歩留等級Ｂ以上であること。

※1 蔓牛…特定の地方に限定して飼養された，血統の結びつきが強い牛群のこと。

※2 地理的表示保護制度…地域には，伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などの生産地等の特性が，品質等の特性に結びついている産品が多く存在している。これらの産品の名称（地理的表示）を知的財産として登録し，保護する制度のこと。

「広島県産材」の活用について

広島県の森林は，昭和 30 年代頃はアカマツと広葉樹が森林面積の９割を占めており，製材や薪炭材などに利用されていました。

その後，燃料転換や木材需要の増加に伴い，県北部を中心にスギやヒノキが植林され，スギ・ヒノキ人工林は森林面積の約３割（人工林の約８割）まで増加し，間伐などの適切な管理を行ってきた結果，現在その多くが利用期を迎えています。

■広島県産スギ・ヒノキ

広島県のスギは県西部の太田川流域を中心に分布し，ヒノキは県北部を中心に分布しています。

用途は，建築物の構造材や内装材，梱包材などに幅広く利用されています。

最近では，教育施設や福祉施設などの公共建築物をはじめ，広島市中心部の地下街広場や宮島旅客ターミナルなどに利用されています。

また，家具や什器等にも利用され，県議会の机・椅子にも，県産ヒノキが使われています。

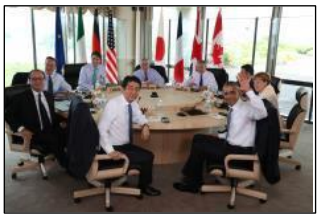
（このほか，ケヤキ，サクラ，クリなどの県産広葉樹についても，準備することができます。）

広島県内のスギ林

広島県内のヒノキ林

■広島サミットでの広島県産材の活用（お願い）

広島県で戦後に植林され，適切に管理された広島県産材を活用することは，国際社会共通の目標である持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の趣旨に即したものであり，首脳会議用円卓をはじめ贈呈品などに，スギやヒノキをはじめとする広島県産材を是非ご活用いただきますようお願い致します。



伊勢志摩サミット首脳会議用円卓（外務省 HP より）

伊勢志摩サミット配偶者プログラムでの昼食用テーブル・椅子（外務省 HP より）

伊勢志摩サミット贈呈品（伊勢志摩サミット三重県民会議資料より）